

家庭学習の充実と望ましい生活習慣の確立を目指して！(その1)

全国学力・学習状況調査の県全体の結果から、落ち着いた学習環境づくりと授業改善等に取り組んできた成果が、全国平均との差の縮小に現れています。

また、小学校で進めてきた自主学習の継承や生活ノートの改善、宿題一覧ボードなどの取組が着実に広がっていますが、依然として**長時間のゲーム利用や家庭学習時間が不十分であるという課題**が残っています。

【岡山県の全国調査結果】

平均正答率〔%〕（下段は全国平均正答率）

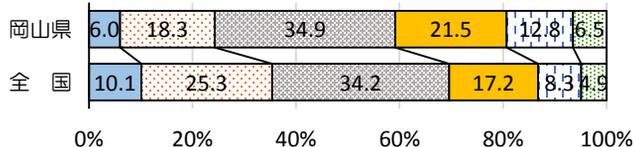
	国語A	国語B	数学A	数学B
中学校 3年生	77.3 (77.4)	70.7 (72.2)	64.0 (64.6)	46.9 (48.1)

・全国平均との差が、-1.5~-0.1〔%〕と縮小した。

【岡山県の学習状況調査結果】

Q:学校の授業時間以外で、ふだん(月～金曜日) 1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか。

- 3時間以上
- 2～3時間
- 1～2時間
- 30分～1時間
- 30分未満
- 全くしない



Q:ふだん(月～金曜日)、1日あたりどれくらいの時間、テレビゲームをしますか。

- 4時間以上
- 3～4時間
- 2～3時間
- 1～2時間
- 1時間未満
- 全くしない



家庭学習に1時間以上取り組む生徒の割合は全国平均を下回り、一方で、ゲームを「3時間以上」「1時間以上」行うとそれぞれ回答した生徒の割合が全国平均を上回り、小学校段階で培った学習習慣が維持できていないことがわかります。

図1から、**部活動を3時間以上行う生徒は、3時間未満の生徒に比べて各教科約5ポイント正答率が低い**ことがわかります。

ところが図2からは、部活動3時間以上と未満の生徒の間で学習時間に大きな差が見られず、むしろ、部活動3時間以上の生徒のほうが、2時間以上学習する生徒の割合が高い傾向があります。

つまり、**部活動3時間以上の生徒は、せっかくの勉強時間が、あまり学力定着に結び付いていない状況にあると言えます。**原因として、心身の疲労による集中力の低下が疑われます。

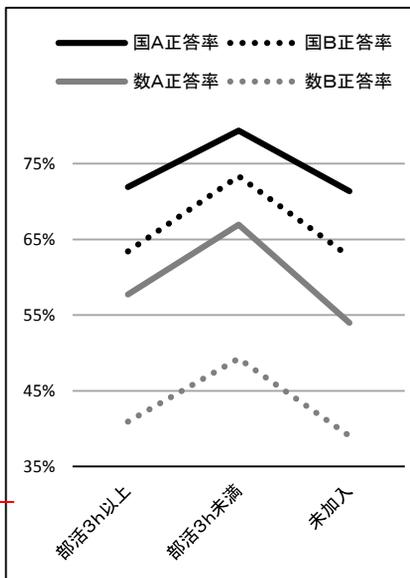


図1 部活動時間と学力調査正答率

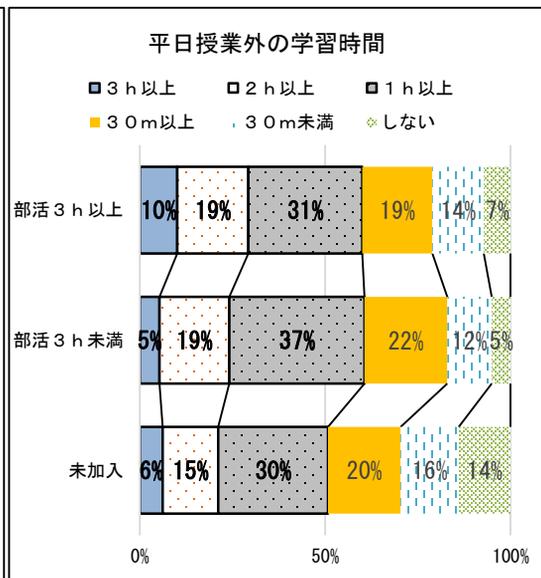


図2 部活動時間と学習時間の関係

中学校においても、組織的に漢字や計算などの定着を図る取組が進んできており、今年度の全国及び県調査結果からは、一定の基礎・基本の定着が進んでいることがわかります。

一方、小学校で進めてきた「学年×10分+10分」といった学習時間目標を延長して生徒に提示するとともに、その目安にふさわしい宿題の質と量を課すことが必要です。そこで、望ましい生活習慣の確立を目指した取組について、今後紹介していきます。



岡山県マスコット「もちっちゃん」

